

江陵白樺学園V

帯南商（推薦）含む6校全道へ

全日本高校選 バレー十勝予選

「春高バレー」につながる第71回全日本高校選手権大会十勝地区予選会（帯広バレーボール協会主催）が6、7の両日、白樺学園高体育館で行われた。10校で争われた女子は、決勝で江陵が帯大谷を2-0で破って頂点に立った。3位は帯三条。5校によるリーグ戦を実施した男子は白樺学園が4戦全勝で4年ぶりに優勝を果たした。帯三条は3勝1敗の2位となり、4連覇はならなかった。女子は道高体連2位の帯南商（道協会推薦）、江陵と帯大谷、帯三条の4校、男子は白樺学園と帯三条の2校が道代表決定戦（11月14・17日・札幌市）に出場する。

（北雅貴）

江陵・女子 攻撃にスピード感

登録選手数が9人の江陵が、力で優勝を手にした。第1セット中盤に清都月愛（2年）がレフトとセンターからスパイクをたたき込みリズムをつかむと、椎野千夏（同）のオープン攻撃やセッターの仲谷千咲都（3年）の2アタックも効果的だった。最後は松野凜



【女子決勝・江陵-帯大谷】江陵は第2セット、①清都月愛がストレートにスパイクを決めて1-0とする



女子優勝の江陵

花（2年）のライトからのスパイクで勝利を決めた。6月の道高体連は予選グループ戦で敗退。4強以上に与えられる推薦出場はならず、6年ぶりに地区予選からの出場となった。道高体連以降に一人ひとりのスパイクの威力が増したほか、コートに空いている所を狙うように練習で意識。嶋田初音主将（3年）は「身長が大きくない分、工夫を徹底してきた」と話す。

伝統的なバレーは健在で、展開のバレーは健在で、9月中旬の横田忠義杯北海道高校大会を制するなど調子も上向きだ。道代表決定戦は昨年まで4年連続4強入りし、最終日に北海きたえーるの広いアリーナで1面しか取らない特設コートに立っている。今年の最低限の目標はベスト4。仲谷

は「スピードのある攻撃を追求し、コンビネーションの使い方も考えていく。2人しかいけない3年生で引張っていきけるように頑張りたい」と力を込めた。学校の再編に伴い3学年がそろ



女子準優勝の帯大谷

う最後の大会で、道内の強豪校に江陵の存在感を示すつもりだ。

ミスあっても前向きにプレー

帯大谷

○：「優勝を目標にしていたので悔しい。ただ、ミスがあっても雰囲気は暗くなることなくプレーできていた」。帯大谷のセッター野中柚香主将（3年）は淡々と振り返った。高体連十勝支部予選後に3年生のアタッカーが引退。出番が回ってきた1、2年生の攻撃陣が成長した。センターの三浦みなみ（2年）のクイックや、脇坂まりん（同）、水野美結（1年）らがスパイクを打ち込



女子3位の帯三条

んだ。第2セットは16-22から4連続得点で2点差まで詰め寄る粘りも。リベロの勝見美咲（3年）を中心とした守備も悪くない。昨年の道代表決定戦は8強入り。山川和絵監督は「江陵戦で、フェイントへの対応と2段階トスの際の攻め方に課題が見えた」とさらなる成長を求めた。

最後まで粘り強く
女子3位・帯三条の楠真琴主将（2年）の話 新チームは9人と人数が少なうて練習が大変だが、きょうはみんな力を合わせて最後まで粘り強くできた。3位決定戦の最終セットの終盤はドキドキして怖かった。全道では挑戦者として力を出し切りたい。